

美術専攻 工芸研究領域 (染)

WANG Yiwèn

オウ イブン



蝶、空を仰ぐ

灯の檻／蛹の内で燃えるもの／空を志す

友禅染め、酸性染料、金箔、銀箔、絹布

蝶、空を仰ぐ 灯の檻／蛹の中で燃えるもの／空を志す

本作は、中国の伝統的な物語『梁山伯と祝英台』に着想を得ている。私が注目したのは、物語の結末に示される「化蝶」という象徴的なイメージである。この「化蝶」は、愛の成就であると同時に、社会的束縛を超えた解放と再生の意味を体現している。本作を通して、女性の内面における抑圧と葛藤、そして解放へと向かう精神的軌跡を伝えたい。

制作手法については、女性を主題とする表現との関係を模索する中で、より柔らかく感情の揺らぎを表現できる技法を求め、線描の自由度が高い友禅染めを用いている。本作では、より細かい糸目糊による描写と、多層的に重ねた色彩のにじみを組み合わせ、明確な輪郭線を設けず、感情が滲み出るような量しの表現を試みた。友禅染め特有の柔らかな線と色の広がりを通して、中国の伝統的な物語に描かれる女性の内面的な感情や繊細な心の動きを表現している。

「灯の檻」

中式の祭という一見幸福な祝祭空間を描いている。しかし、灯籠は光の象徴だけではなく、檻のような構造として配置され、内部に蝶が閉じ込められている。これは、伝統的な礼教や社会規範の中で、守られていながらも、自由を奪われていた女性の姿を象徴している。

「蛹の中で燃えるもの」

蜘蛛の巣が社会的圧力や他者の視線を象徴し、蝶を強く縛り付けている。赤い蛹は、抑圧の中で育まれる内面の情熱や意志を表しており、外部からの束縛があっても、女性が自らの可能性を諦めていないことを表現している。

「空を志す」

蝶は蛹を破り、檻から解放されて空へと飛び立つ。その姿は、女性が自己の存在を肯定し、自らの人生を選び取る瞬間を象徴している。蜘蛛の巣に絡まりながらも上へ伸びる朝顔は、完全な自由に至らずとも成長し続ける意志の象徴である。

(『梁山伯と祝英台』は中国に伝わる悲恋物語であり、学問を志して男装した祝英台と梁山伯の出会いと別れを描いている。家族の意向によって結ばれぬ運命の中、二人は死後に蝶となって空へ飛び立つとされた。)